

三浦市青少年派遣団

平成30年度活動報告書



# 目的

オーストラリア及びウォーナンブル市の教育・文化・生活習慣等の理解  
青少年同士の交流  
国際的視野を持つ青少年の育成  
次代の市民同士、地域同士の交流の促進

# 目次

この報告書はウォーナンブル市との”かけはし”となる三浦市青少年派遣団の活動記録です

国際姉妹都市ウォーナンブル市	1
派遣団	2
引率者	3
活動日誌	4～17
報告活動	18～19
研究課題	20～27
派遣を終えて	28～36

## 派遣団

引率者 2名  
派遣生 8名  
(高校生4名 中学生4名)

## 派遣先

オーストラリア  
ヴィクトリア州  
ウォーナンブル市

## 派遣期間

平成30年  
8月 1日(水)～  
8月16日(木)

# 活動概要

## 研修

.....  
6/ 6 (水)  
事務局による概要説明  
6/20 (水)  
事務局による研究課題指導  
7/ 4 (水)  
ALT による英語指導  
7/14 (土)  
ELC による英語指導  
7/18 (水)  
事務局による渡航指導  
8/23 (木)  
事務局による研究課題指導

## 交流

.....  
7/13 (金)  
ブラウアカレッジから来市したウォーナンブル市青少年派遣団(引率者2名、派遣生5名)を迎えての活動報告+親善パーティに出席し、スタッフ業務のほか、英語でのスピーチを披露  
8/ 1 (水)～16 (木)  
ウォーナンブル市内の家庭に滞在し、学校生活、視察、市長表敬を体験

## 報告

.....  
7/30 (月)  
市長、実行委員会及び保護者へ出発について報告  
8/23 (木)  
市長、実行委員会及び保護者へ渡航中の活動概要を報告  
8/30 (木)  
三浦ロータリークラブへ渡航中の活動概要を報告  
11/18 (日)  
三浦市民まつりにおいて活動経過を市民へ報告

# 国際姉妹都市オーストラリア・ウォーナンブール市

ウォーナンブール市はオーストラリアの南東部に位置する穏やかな気候と自然豊かな大地に恵まれた人口約 35,000 人の美しい都市です。

メルボルンへ約 300km 続く切り立った海岸線と奇岩で知られるグレートオーシャンロードや、野生のクジラを観察できるホエールウォッチングには多くの観光客が訪れます。



また、広大な牧草地帯に続く放牧風景はオーストラリアの大自然をそのまま感じることが出来ます。



市内には、古き時代のハーバービレッジを再現したフラッグスタッフヒルや、野生のコアラやカンガルーなどが生息する自然公園のタワーヒルなど人と自然が調和し共生している街です。

昭和 56 年（1981 年）4 月、ウォーナンブール市長をはじめとする一行が、交流を目的として本市を訪れたのが始まりでした。

その後、昭和 58 年（1983 年）、ウォーナンブール市議会議員が三浦市を訪

れたことをきっかけに、姉妹都市提携を前提とした交流が始まりました。市民訪問団による相互訪問を含む約 10 年間の準備の後、平成 4 年（1992 年）7 月 6 日姉妹都市の盟約を結ぶに至りました。

締結後は、青少年の相互派遣や留学生の受入れ等の教育の交流、市民訪問団による相互交流や行政間交流、有志による芸術交流も行われています。

平成 24 年（2012 年）から平成 27 年（2015 年）にかけて姉妹都市提携 20 周年を記念し様々な交流が行われました。5 月に三浦市国際交流協会訪問団が、8 月に三浦市長がウォーナンブール市を訪れ、記念行事等に出席しました。

平成 25 年（2013 年）10 月、ウォーナンブール市長を始めとする 11 名の訪問団を三浦市へお招きし、様々な姉妹都市提携 20 周年記念事業を実施しました。

また、平成 27 年（2015 年）4 月、ウォーナンブール市民訪問団が三浦市に滞在し、ホームステイや日本文化体験を通して、これまで育んできた両市の絆をさらに深めることができました。

そして、平成 30 年（2018 年）5 月、三浦市国際交流協会訪問団が、25 周年を記念しウォーナンブール市を訪れました。

# 派遣団

## <紹介>

平成30年度（2018年度）三浦市青少年派遣団を紹介します。引率者は三崎中学校教頭の市川昌樹先生、ALTのコートニーマシューさんの2名。

派遣生は高校生が、2年生の伊澤洋里さん、伊藤叶さん、池田晶寛さん、1年生の尼野美優さんの4名。

中学生は2年生の松崎新さん、多田百花さん、飯田美希アリソンさん、佐藤美優さんの4名、計8名。

## <活動>

派遣生は5月の選考試験を経て、6月より事前研修が開始となり、派遣目的等の理解や研究課題への取組のほか、ELC（上智大学英語指導サークルのOB・OGによる英語指導ボランティア）そしてALT（三浦市国際交流推進英語非常勤講師）による語学研修へ出席しました。7月には、ウォーナンブル市ブラウアーカレッジからウォーナンブル市青少年派遣団が来市しました。その際の活動報告及び親善パーティにおいては、会場スタッフを担うほか、英語で歓迎のスピーチを披露しました。そして7月末、壮行会において活動予定を報告をし、8月1日にオーストラリアへ向けて派遣団は出発しました。



派遣生の研究課題のテーマは、日常的なものから三浦市の将来に関わるものまで幅広く、それぞれ自分らしい内容を選択しております。

「日常生活に関わるもの」としては、コミュニケーション（松崎）、食文化（伊藤、多田、飯田）がテーマになりました。「教育に関わるもの」としては、学校生活（尼野）、言語（飯田、池田）がテーマになりました。また「自然に関わるもの」としては、自然の違い（佐藤）、「観光に関わるもの」としては、観光の違い（伊澤）がテーマになりました。

# 引率者

## 三浦市立三崎中学校 教頭 市川 昌樹

平成 30 年度三浦市青少年派遣団の引率をさせていただきました。まずは、全員を笑顔で無事にご家庭にお返しすることができたことに心の底から安堵しております。

8名の派遣団の生徒たちは、16 日間、実に一生懸命取り組んでいました。どんなことにも前向きで決して逃げませんでした。既習の英語を使ってなんとか相手と心を通じ合わせようとする彼らの姿勢は、すごいな、素晴らしいな、とずっと感じていました。たとえ英語力はつたなくとも、同じ「人」として心を通い合わせることは可能なのです！

派遣団のみんなから私自身が勇気づけられ、学ばせてもらったこともたくさんありました。大げさに言えば、「英語を学ぶ意義とは、将来異なる文化の人たちと交流し協働して、より良い社会を作るためだ」ということを教えてもらったように感じています。私にとってウォーナンブールの方々との出会いはもちろん素晴らしい貴重な体験となりましたが、派遣団のみんなと出会えたことも大きな財産となりました。

16 日間の中でしばしば開いたミーティングの中で、「一生懸命やっていれば、失敗はあって当たり前、失敗から学ぶことの方が多いのだから、後悔しないよう今ここでしかできないことを一生懸命やろう」と確認し合いました。派遣団での生活だけではなく、これからの生活にもぜひ活かして行ってほしいな、と願っています。ありがとうございました。

## 三浦市国際交流推進英語非常勤講師 コートニー マシュー

2018 年度の三浦市の青少年派遣団のウォーナンブールへの親善訪問に参加させていただいて、ありがとうございます。

私の街の魅力や、オーストラリアの文化を生徒に体験させることができて良かったと思います。

三浦市とウォーナンブール市が長年に渡って築き上げてきた関係があってこそ、素晴らしい体験になったと思います。このような機会があることを、今後も楽しみにしています。

出発する前に、生徒たちは自分の英語力を心配していたようでした。ですが、ウォーナンブールに到着してホストファミリーに会ってから、日が経つにつれお互い打ち解け合い、ペラペラとコミュニケーションをとれるようになった姿をみて、びっくりしました！最後にお別れしてたところ、生徒がその家族の一部のように見えました！

ホストファミリーとの関係のおかげだけでなく、毎日生徒のみなさんがウォーナンブールの学校で頑張っていて、多くの生徒に話しかけようとしていた努力のおかげだと思いました。

2 週間後、生徒たちの英語がすごく上手になりました。三浦市の生徒はとても立派だったと思います。この立派な生徒たちが青少年派遣団として、三浦市とウォーナンブールの関係を深めるため、そして自分を成長させるため、ウォーナンブールへ行くことがとても素晴らしい機会だったと思います。

将来の生徒の姿がどう変わっていくのか、どんな成功があるのか、楽しみにしています。